

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究抄録(2022.4)令和2・3年度:

コロナ禍における部署内教育を考える
～ 集合研修とeラーニングの併用に対するスタッフの意識と
評価～

コロナ禍における部署内教育を考える ～集合研修とeラーニングの併用に対するスタッフの意識と評価～

旭川医科大学病院 5階東ナースステーション

○齊藤容加 塩谷今日子

キーワード：教育 学習会 eラーニング

I. 目的

標準看護と看護の質を標準化するための看護基準を理解するために講義形式、シミュレーション形式など様々な学習会を開催してきた。しかしコロナ禍のなかでeラーニングの活用やオンラインでの研修が増えてきている現在、スタッフの実践力や教育力を向上させるためにはどのような学習機会が必要か、これまでの学習会の効果と学習者であるスタッフのニーズを明らかにすることで、今後の部署内教育の在り方を考えていきたい。

II. 方法

1. 調査対象 2020年4月～2021年3月にA病棟に在籍した看護師22名

2. 調査期間 2020年4月～2021年3月

3. 調査方法

1) 集合学習会の実施調査

① 実施方法 ② テーマ ③ 参加人数

2) eラーニングの実施調査

① 実施方法 ② 受講状況

3) 実施した集合学習会に関する無記名自記式アンケート調査(調査項目は独自に作成した5項目とし、個人が特定できない情報のみを収集し分析する)

4) 実施したeラーニング学習に関する無記名自記式アンケート調査(調査項目は独自に作成した5項目とし、個人が特定できない情報のみを収集し分析する)

III. 倫理的配慮

旭川医科大学倫理委員会の承認を得て実施した。

得られたデータや分析結果などのすべてのデータは十分に配慮して保管する。また、個人情報の取り扱いはない。

IV. 結果

集合学習会はテーマに応じた目標を設定し、昼カンファレンス時間に2回、日勤終了後に23回実施、実施時間は質問含め平均40分、参加者は平均6.5人であった。テーマは年間計画に基づき実施したものと、適宜必要と判断し追加実施した

ものがあった。

eラーニングは通年で実施していたが受講のための特別な取り組みはしていなかったため、12月に学習係がテーマをラダー別に振り分け一覧表を作成し、3項目以上の受講を促した。12月の受講人数は15名、全員が該当するラダーレベルで3項目受講していた。

集合学習会のアンケート結果では、平均、目標達成できた85%、内容を理解できた80%、実践に活かせる90%であった。学んだことや感じたことでは、理由がわかり疑問が解決された、気になることが質問できてよかった、今後必要と考える学習会には事例検討やステップアップを求める記載があった。またアンケートに記載はないものの、集合学習会は日勤業務終了後に実施するため、面倒・拘束時間が長いとの意見があった。

eラーニングのアンケート結果では、開始時期は適切67%、視聴内容は易しい67%、ラダーの振り分けは適切95%、看護実践に活かせる86%であった。意見や感想は、ラダーの振り分けがわかりやすく続けてほしい、毎月1項目受講が良い、自己学習の機会意識が持てる、密を避けるためにもよかった、学習会前後で該当する項目を見ると良いと思う、などがあった。

V. 考察

学習会は教育の対象である看護職者が所属する単位ごとに行われる教育機会である1)と言われており、看護の質向上には欠かすことはできないと考える。集合学習会は直接話を聞くことができ、気になるタイミングで質問し他者とやり取りすることで内容理解が深まり看護実践に活かすことができる。しかし参加人数や時間確保のためには業務終了後に実施することが多く、頻繁に学習会があると負担は大きい。またコロナ禍の社会情勢を考えると、オンライン学習をどのように活用するかが重要である。現在、eラーニングを用いた学習機会は多くのスタッフ

が継続したいと考えており、部署教育としてのeラーニングを取り入れた学習会をどのように企画・運営するかを検討する必要がある。

VI. 結論

部署内教育では集合学習会とeラーニング学習の併用が必要である。

VII. 引用文献

1) 渡辺健太郎、舟島なをみ、中山登志子：看護単位別学習会の企画・運営に伴う困難とその克服法の解明, 看護教育学研究, 27(1), 37-49, 2018